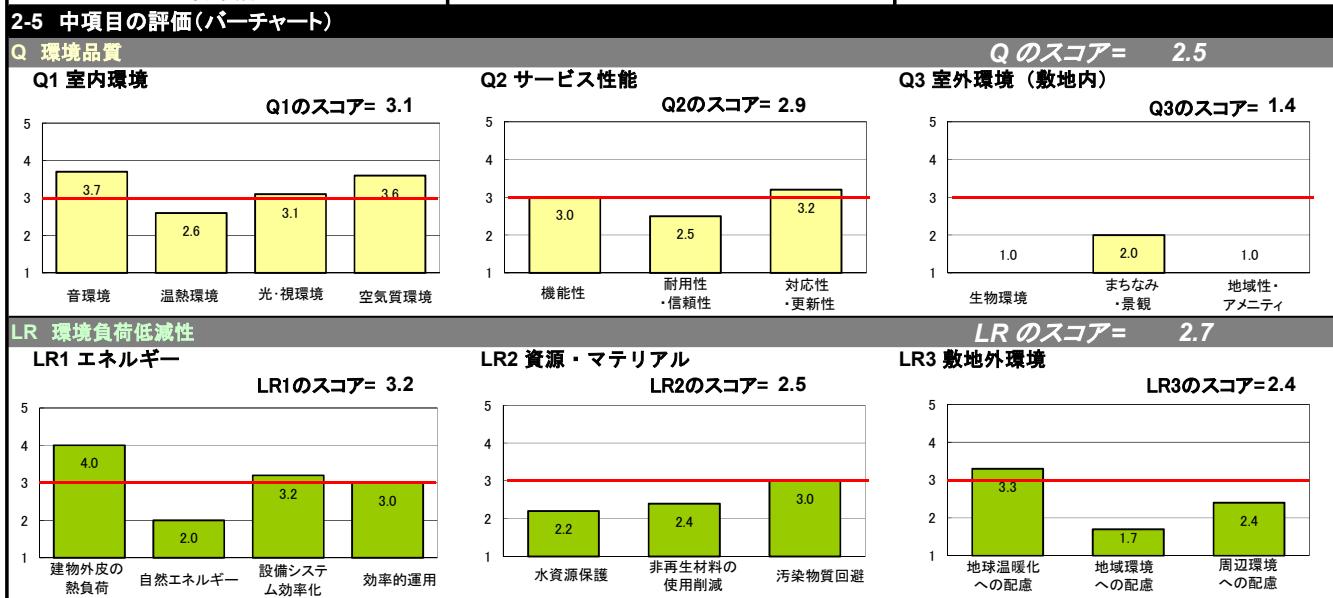
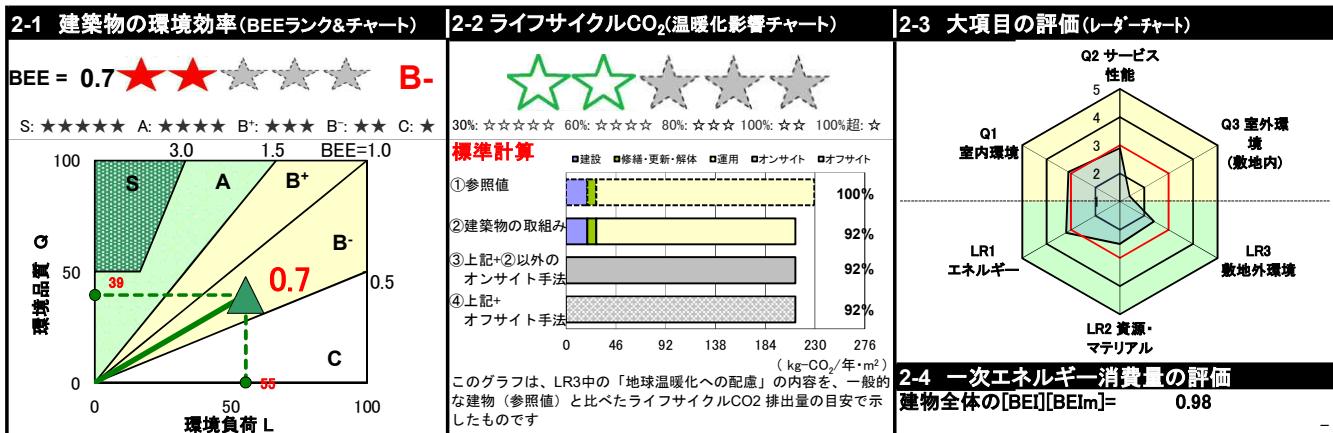


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	札幌北十二条地点 建設工事	階数	地上8階
建設地	札幌市東区北12条東5丁目5番50、51	構造	RC造
用途地域	準住居地域・準防火地域・45M高 度地区・居住系市街地	平均居住人員	98 人
建物用途	集合住宅	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
竣工年	2020年3月 予定	評価の段階	実施設計段階評価
敷地面積	903 m <sup>2</sup>	評価の実施日	2020年2月1日
建築面積	490 m <sup>2</sup>	作成者	
延床面積	3,269 m <sup>2</sup>	確認日	
		確認者	



3 設計上の配慮事項		A 省エネルギー	
<b>総合</b>		二重サッシや適切な断熱材を採用し、熱損失の低減をおこなった。	
外壁に調和した吹付タイルを使い、周囲の環境との調和に考慮している。			
バルコニーに軽やかなイメージのアルミルーバー手すりを設置し、建物の圧迫感を軽減し、近隣への配慮をしている。			
充実した共用部を計画し、快適な居住空間としている。			
<b>B 省資源等</b>		<b>D 雪処理</b>	
外壁に吹付タイル等を、内部仕上にもタイル等の耐久性の高い材料を採用するなど、省資源に考慮した。		市条例の対応し、全て無落雪屋根の陸屋根としている。	
		敷地内通路は、市条例に対応し、積雪時でも幅1.5mを確保する。	

(財)建築環境・省エネルギー機構のCASBEE認証	-	BELS認証	-	LEED認証	-
上記以外の認証・評価制度の利用					

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフケイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

## CASBEE札幌2016(ver.1.4)

札幌北十二条地点 建設工事

■使用評価マニュアル: CASBEE\_Sapporo2016v1.0

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.4)

スコアシート	実施設計段階	重点評価項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
				評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								2.5
Q1 室内環境					0.40		-	3.1
1 音環境				4.0	0.15	3.6	1.00	3.7
1.1 室内騒音レベル			共同住宅のため、騒音発生は少ない	3.0	0.50	4.0	0.50	
1.2 遮音				5.0	0.50	3.2	0.50	
1 開口部遮音性能			サッシ遮音性能T-2以上	5.0	1.00	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能					-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-	2.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-	2.0	0.20	
1.3 吸音					-		-	
2 溫熱環境				2.5	0.35	2.6	1.00	2.6
2.1 室温制御				3.0	0.50	3.3	0.50	
1 室温				3.0	0.63	3.0	0.63	
2 外皮性能	省エネ		建築物省エネ法の基準を満たしている。	3.0	0.38	4.0	0.38	
3 ゾーン別制御性					-		-	
2.2 湿度制御				2.0	0.20	2.0	0.20	
2.3 空調方式				2.0	0.30	2.0	0.30	
3 光・視環境				3.0	0.25	3.2	1.00	3.1
3.1 昼光利用				4.2	0.30	3.4	0.50	
1 昼光率			パルコニー及びカーテンを採用	5.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口					-	1.0	0.30	
3 昼光利用設備	省エネ			3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策				2.0	0.30	3.0	0.50	
1 昼光制御	省エネ			2.0	1.00	3.0	1.00	
2 映り込み対策					-		-	
3.3 照度				3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御				3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境				3.6	0.25	3.6	1.00	3.6
4.1 発生源対策				4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質			内装材は全てF☆☆☆☆製品を採用	4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気				3.0	0.40	3.0	0.38	
1 換気量				3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能					-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理					-		-	
1 CO <sub>2</sub> の監視					-		-	
2 嘸煙の制御					-		-	

Q2 サービス性能				—	0.30	—	—	2.9
1 機能性				3.0	0.40	3.0	1.00	3.0
1.1 機能性・使いやすさ				—	—	3.0	0.60	
1 広さ・収納性					—	—	—	
2 高度情報通信設備対応					—	3.0	1.00	
3 バリアフリー計画				—	—	—	—	
1.2 心理性・快適性				3.0	0.50	3.0	0.40	
1 広さ感・景観 (天井高)					—	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース					—	—	—	
3 内装計画				3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理				3.0	0.50	—	—	
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	—	—	
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	—	—	
2 耐用性・信頼性				2.5	0.30	—	—	2.5
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	—	—	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	—	—	
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	—	—	
2.2 部品・部材の耐用年数				2.7	0.30	—	—	
1 車体材料の耐用年数				3.0	0.20	—	—	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源			2.0	0.20	—	—	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源			2.0	0.10	—	—	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源			3.0	0.10	—	—	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源	期待耐用年数が長い管材を選定している。		4.0	0.20	—	—	
6 主要設備機器の更新必要間隔	省資源			2.0	0.20	—	—	
2.4 信頼性				1.4	0.20	—	—	
1 空調・換気設備				3.0	0.20	—	—	
2 給排水・衛生設備				1.0	0.20	—	—	
3 電気設備				1.0	0.20	—	—	
4 機械・配管支持方法				1.0	0.20	—	—	
5 通信・情報設備				1.0	0.20	—	—	

3 対応性・更新性			3.0	0.30	3.4	1.00	3.2
3.1 空間のゆとり				-	3.8	0.50	
1 階高のゆとり		基準階の階高 2.96m		-	5.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ				-	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	1.00		-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20		-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20		-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10		-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10		-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20		-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	1.4
1 生物環境の保全と創出	緑化		1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	緑化		2.0	0.40		-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			1.0	0.30		-	1.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	雪処理		1.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化		1.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-		-	2.7
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.2
1 建物外皮の熱負荷抑制	省エネ	建築物省エネ法の基準を満たしている。	4.0	0.20		-	4.0
2 自然エネルギー利用	省エネ		2.0	0.10		-	2.0
3 設備システムの高効率化	省エネ	[BEI][BEIm] = 0.98 —	3.2	0.50		-	3.2
4 効率的運用			3.0	0.20		-	3.0
集合住宅以外の評価				-		-	
4.1 モニタリング	省エネ			-		-	
4.2 運用管理体制	省エネ			-		-	
集合住宅の評価			3.0	1.00		-	
4.1 モニタリング	省エネ		3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制	省エネ		3.0	0.50		-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.5
1 水資源保護			2.2	0.20		-	2.2
1.1 節水			1.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	1.00		-	
2 雜排水等利用システム導入の有無			-	-		-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.4	0.60		-	2.4
2.1 材料使用量の削減	省資源		2.0	0.11		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	省資源		3.0	0.22		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源		3.0	0.22		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源		1.0	0.22		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	省資源		-	-		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	省資源		3.0	0.22		-	

3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1 消火剤	省資源		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	省資源		3.0	0.50	-	-	
3 冷媒	省資源		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	2.4
1 地球温暖化への配慮	省資源	共同住宅の一般的な建物と同等。	3.3	0.33	-	-	3.3
2 地域環境への配慮			1.7	0.33	-	-	1.7
2.1 大気汚染防止	省資源		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	省資源 悪化 削減		1.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	省資源		1.0	0.25	-	-	
2 污水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	省資源 削減		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			2.4	0.33	-	-	2.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	0.33	-	-	
2 振動			3.0	0.33	-	-	
3 悪臭			3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			1.6	0.40	-	-	
1 風害の抑制			1.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			1.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency  
**CASBEE札幌**



**重点項目  
評価結果**

■使用評価マニュアル: CASBEE\_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.4)

**1 建物概要**

建物名称	札幌北十二条地点 建設工事	BEE	0.7	BEEランク	B-
建物用途	集合住宅				
延床面積	3,269.3 m <sup>2</sup>				

**2 重点項目への取り組み**



**3. 重点項目のCASBEEスコア**

<b>A 省エネルギー</b> ( 最高点 23.5 最低点 7.4 )			<b>合計</b>	<b>14.6点</b> / 23.5点
Q1 温熱環境	スコア <b>0.8</b> / 1.4	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	<b>3.2</b> / 4.0
Q1 光・視環境	スコア <b>1.0</b> / 2.1	LR1 自然エネルギー利用	スコア	<b>0.8</b> / 2.0
		LR1 設備システムの高効率化	スコア	<b>6.4</b> / 10.0
		LR1 効率的運用	スコア	<b>2.4</b> / 4.0
<b>B 省資源等</b> ( 最高点 23.7 最低点 7.7 )			<b>合計</b>	<b>11.3点</b> / 23.7点
Q2 耐用性・信頼性	スコア <b>0.5</b> / 1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	<b>4.3</b> / 9.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア <b>0.5</b> / 2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	<b>1.3</b> / 1.9
		LR3 地球温暖化への配慮	スコア	<b>3.3</b> / 5.0
		LR3 地域環境への配慮	スコア	<b>1.4</b> / 4.4
<b>C 緑化</b> ( 最高点 15.3 最低点 3.1 )			<b>合計</b>	<b>4.3点</b> / 15.3点
Q3 生物環境の保全と創出	スコア <b>0.9</b> / 4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア	<b>0.5</b> / 2.5
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア <b>2.4</b> / 6.0			
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア <b>0.5</b> / 2.3			
<b>D 雪処理</b> ( 最高点 3.0 最低点 0 )			<b>合計</b>	<b>0.0点</b> / 3.0点
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア <b>0.0</b> / 1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	<b>0.0</b> / 2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用・改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■重点項目の最高点は、各評価項目でレベル5で評価された場合の点数

■重点項目の最低点は、各評価項目でレベル1で評価された場合の点数